誌上行学講習会

高佐日煌上人

又、上野に酒悦（福神漬）がありますが、

あるまらあまて説や為大程り頭着なもめいあいでるまらあまて説や為大程り頭着なもめいあのあのすをりせい家っで部のまの眼いっにつれでりは。総そんてにてあ分価す中か。た来たはありま心命括の。もないり、値。でら何いるよお意令し頭記想れるま小をこ想出となあう盆ますか識すてが憶像るこす説ものっ来かいれなの識、る支五、力わと。家っ想て上利、でも時に

ら。よこの配官連がけなこはて像いっ用決すの、あ

（以下次号）

くのはすを想豊でんれ想いこるた方しな、あ覚二覚る使、かはでも像まそこも法て、よがえつ意のっ思でなあ厳家す文とのは悪あくっての識がて惟ないり密と。化をでなくれおた

お区、心いのけのまに言小の組あいなを迎キい別実意る機れですはわ説母立りもっみえュがては際識わ関ばす。小れなとてまのててくウあり

い大になけが小。誰説るぞいるすかい捨とリ、ま

た切働ので頭説字で家のはっこ。。るてい、ま

だないで、のははものも想てと想とのるっナすが、

きこてあそ中書知が頭そ像よで像いでのてスが、

たといりれにけっ小がのがいあはうはは集と

お題目で成仏する七

釈尊の涅槃寂静、寂滅為楽の境地は、自我、我欲を滅却し肉体から脱却し、輪廻から解脱するという教えであった。此れは八正道、（正見、正思、正語、正行、正命、正精進、正念、正定）などの実習により到達されると説かれる。

ところが日蓮大聖人は、これ等の境地は、お題目の信唱受持という信仰によって到達できるとされた。それは我々人類は、仏の生命の分身であるから可能となれる。

南無妙法蓮華経と唱えると、私たちは、本当の自分である本仏の生命に帰ることが出来る。此れは法華経の久遠本仏の命を前提とした教えである。法華経では全ての命は仏生の命を顕れと解されるからである。

ここの信仰に立つなら、八正道、六波羅蜜は自然にあつく信仰でなくなる。それは修行としてではなく、已に仏身のそれらの自然な仏としての振るまいとして私達南無妙法蓮華経と唱えると、私たちは釈尊の心と振る舞いこの私達頂くこと出来るから、即身成仏する。つまりこの私達のかだを持ったまま成仏することが出来る。我らは仏の分身であり、我らの心がは我らは仏の真理をよく理解し、味わいに南無妙法蓮華経と唱えることである。

法華経の妙法蓮華経と唱えることの人の仏性を認め礼拝することによって不軽菩薩は、全ての人の仏性を礼賛し、信仰である。

解脱は全人類の仏性への礼賛であり、信仰である。

日蓮大聖人の仏教と原始仏教経典教えとの違いは、南無妙法蓮華経と唱えるとなった私たちは、南無妙法蓮華経と唱えるとは、人類救済の事業、菩薩行を行ずる。即人類救済の事業、菩薩行を行ずる。即人類救済と佛土建設という大事業に向かうことである。南無妙法蓮華経とは仏性礼賛、仏性実現の信仰である。